

ちびっこ チャンピオン

「雨つぶのモビール」

みよし保育園のなかよしたち

(上段左から)

あきもと く る みさん (5さい)
 さいとう ゆ いさん (5さい)
 いしざわ ゆ う なさん (5さい)

(下段左から)

たけうち さ えさん (5さい)
 おさなひ さ ころ たくん (4さい)
 やなぎだ さ り ゆ うくん (4さい)
 しまだだ や ま とくん (4さい)
 いたばい た ゆ ず きくん (4さい)
 いした あ か ねさん (4さい)



このコーナーでは、元気いっぱいな園児達の作品をご紹介します。



西崎ななちゃん
 (船作) H29/6/1生
 「笑顔が最高！大好きだよ！」



熊谷綾夏ちゃん
 (黒崎) H29/6/23生
 「たたいまを力向上中！」



大川海性ちゃん
 (北金2区) H30/6/22生
 「かっちゃん
 な誕生日おめでとう！」



川添葉琥くん
 (岩崎上) R1/6/24生
 「シユワッチーはく！」



山本悠土くん
 (田野沢) R1/6/14生
 「元気にすくすく育ってね！」

このコーナーでは、お誕生日を迎えたチビッコ達をご紹介します

草創教育長の「今月の一枚」

イチゴの思う事

イチゴが旬です。この季節になると思い出す、幼い頃の光景があります。夕暮れ時、祖父が一日の農作業から帰ってきます。祖父が外から土間に入る気配に気づくと、私はすぐに走り寄ります。そして、かける言葉は必ず決まって「おじっちゃん、めにあったべ〜。」

これは、身に刻み込まれた鉄則の習慣です。きつと母や祖母が、「一家の主が帰ったら、労をねぎらうのが家族のつとめだ」とばかりに、口うつしで私に仕込んでくれます。

子ども心にも、笑顔の在庫も少なく武骨に思えた祖父でしたが、孫のねぎらいの言葉にはニコリとほほえんで、よく「おみやげ」をくれました。

それは、空のアルマイト弁当箱に詰められた桑の実やグミだったり、どでかいオニヤンマやサワガニだったり、さまざま。

今頃の季節の定番がイチゴでした。裏山の畑からの摘みたてを、丁寧にフキの葉に包んでいます。そのたびに、「おじっちゃん、めにあったべ〜。」というねぎらいの言葉へのお返しにもうらえたような、そんなありがたさを感じながらイチゴをほおばったものです。

今は品種改良ではるかに

美味しくなっているのですが、あのありがたいイチゴを上回る味にはもう出会えない気がしています。

年寄りの昔話だと笑われそうです。

確かに今は、大人が働く姿を身近に見る機会も少ない分、子どもが感謝の思いを持ちにくい時代です。でも、子どもが感謝の思いを持つ事なんか不要だと冷笑する人はいないでしょうか？ 素直に感謝の口に出せる子は素直に自分の力を伸ばせる、この真実を否定する者もいないでしょうか？ 形からでも構わないのです。必要な感謝の言葉を、ためらわず子どもに仕込んでほしいと思います。

車で送ってもらったら「ありがとう」でしょ。プレゼント貰って嬉しかったらお礼くらい言うものです。手間ひまかけて作った料理に一言くらい感想言ってみよう。

最も身近な家族にさえ感謝をさせない子どもに、思いやりなど期待できません。思いやりの出発点は、学校でも社会でもなく、家族の間にある。わたしは、そう確信します。

(教育長 草創 文人)

